釘町 彰 展
Akira Kugimachi Exhibition

DATA
山下画廊
中央区銀座7-7-15 HARAビル1F
HARA Bldg. 1F, 7-7-15 Ginza,Chuo-ku,Tokyo
Tel. 03-5537-8787　Fax. 03-5537-8785
E-mail gallery@g-yamashita.jp　http://www.g-yamashita.jp

「Snowscape」55×55cm

くぎまち・あきら
1968年神奈川県生まれ。95年多摩美術大学大学院修士課程絵画科日本画専攻修了。95〜96年マルセイユ・フランス国立美術学校。99年度パリ第8大学大学院メディアアート科修士課程修了。文化庁在外派遣芸術家としてパリで活動。国内外で個展、グループ展多数。また建築とのコラボレーションによる作品インスタレーションや、立体等、様々な領域にその表現活動の場を広げている。現在パリ在住。

Akira Kugimachi
Born in Kanagawa Prefecture in 1968, Mr. Kugimachi completed the Master's Degree course in Japanese painting at Graduate School of Tama Art University in 1995. He attended École supérieure des beaux-arts de Marseille between 1995 and 1996, and completed the Master's Degree course at Université Paris 8 in 1999, majoring in media arts. Following the graduation, he was active in Paris as an overseas artist dispatched by Agency for Cultural Affairs. Mr. Kugimachi has held numerous private and group exhibitions in Japan and abroad, and expanded the sphere of his creative expression to cover installations created in collaboration with architects, three-dimensional works, etc. He currently lives in Paris.

絵画の未来が広がる世界

昨年初公開され話題を呼んだ、釘町彰のモノトーンによる雪山シリーズ「Snowscape」。引き続き今年も、同シリーズの新作を出品する。画面はさらに格調を高め、とくに2メートル四方の大作は注目される。

取材地は昨年のスイスのモンブランからユングフラウ、ツェルマットに移ったが、画中の雪山は特定の山並みを超越した存在になっている。数十年の後、温暖化の影響でその山肌から雪の模様が消えてしまうと推測される、スイスの雪山。昨年から発表している「Snowscape」シリーズでは、地球と人間との関係そのものを問うというテーマを孕んでいるが、今回のより抽象化された画面からは、そういったメッセージ性すら否定し、人智を超えた自然の作った形に埋没していくかの様な印象を与える。4000メートル級の雪山に自ら登り、自身が撮影した写真をもとに、構図をパソコン上でミリ単位で徹底的に詰めてゆく。それをスキャンして、あらかじめ作った天然岩絵具による黒と白のグラデーションの下地の上に、輪郭を描き、それから少しずつ雪や岩の部分を、写真に完全に従って描画していく……。気の遠くなる緻密な作業の過程を経て、ひたすら客観的に形を追ううちに、釘町は完全に対象に没頭するのである。

「私自身は構図、つまり自然が成した形の切り取り方を選んだだけです。仏教的な言い方をすれば自己を滅却しながら、全く自分でモティーフに操作を入れずに、写真をもとに厳密に具体的な対象を再現することで、全く違う次元の雪と岩肌とが織りなす模様を描いたオールオーバーな抽象表現に至る。そこには、アブストラクトやフィギュラティフ、洋の東西、また古典やコンテンポラリーといった垣根を超えたとても豊かな世界が広がっている様に感じたのです。またその表現で、美術史の線的な流れをまた違った視点で捉え直すことができるのではないかと。素材的には、地球の岩からダイレクトに抽出した天然の岩絵具で岩そのものを描く、それはある意味でとてもコンセプチュアルなことで、そして同時にこれこそが、日本画と言われる素材の醍醐味を表すことになるだろうと思ったのです」

より抽象性を引き出すためにフォーマットはスクエアを用いるが、今回の大作は2メートル四方という大きさだ。人間のサイズを越えるサイズで描くことで、鑑賞者は雪山の絶壁が目の前に立ちはだかっているような、臨場感と迫力を体験することだろう。

雪山の空は虚空へと向かっていく宇宙の深遠を思わせる黒で表現され、それは彼自身の言葉を引用するなら「距離感」を表し、雪の影は徹底的にクールな温度を表現するために紫がかった薄いブルーによって彩られる。ミケランジェロやフェルメールも愛したと言われるラピス・ブルー。その澄んだ色調には、生命起源を思わせる神秘感がある。黒と白のモノトーンに、この青い色が登場し、より抽象的でいわば意味を排除した世界へと至ったことは、今回の新境地となっている。

「Snowscape」について、以前、千住博が個人的往復書簡で釘町本人に宛てたという一文を紹介しよう。このシリーズの魅力が、想像力豊かに語られている。

「この雪山の作品には人が全て死に絶えた超未来の感じがあります。過去の感じはありません。下山したからと言って、人の営みがあるとも思えない。もう誰もいない。深海にも通じる無人感です。この感覚は予言的で面白い。人間の世界に降りて来て文明を見直そうにも、人類が絶えて久しい。この風景はそもそも無人探査機の視点ですよ。しかし雪はわずかに降り続け、途方もない時間をかけ、地球の再生に向かう、そんなストーリーを感じます。この作品には絵画の未来が広っています」

現在釘町は、本シリーズによる全幅12メートルに及ぶパノラミックな大作を制作中だという。どのような世界を見せてくれるのか楽しみに待ちたい。

「Snowscape」200×200cm

The Snowscape series Kugimachi has published since last year probes the connection between people and the Earth. However, more abstract painting exhibited denies that messages, and gives the impression that the artist is submerging beneath the form created by the nature that transcends the human wisdom.
The square format is used for drawing out the more abstract nature of the paintings. The work exhibited is as large as 2 square meters. The painting rendered in a size exceeding that of humans enables viewers to experience vividness and dynamism felt similarly when standing in front of a snow-covered cliff.